

製本のススメ

Vol. 148

秋の長雨とは言いますが、それにしても毎日雨ですね。しかも時折強く降りますので慌ててしまいます。気温も一気に下がり始めて服装の入れ替えが間に合いません、清々しい秋晴れが待ち遠しいですね。

今回は**急ぎすぎる加工**の話し

朝 注文すると即日配送が定着しつつありますが、それは物販のお話 物づくりに はそれなりに必要な時間があります。もちろんどの工程でも納期短縮に取り組んでいます、それでも必要な時間はあります。たとえば**インキの乾燥**です。最近ではUV印刷も増えてきましたが、通常のオフセットでは積み替えで3時間程度 製本加工をする場合には8時間程度は乾燥させておかないとなりません。

製本加工では かなりの圧力が刷り本にかかります。断裁も締めないと切れませんし 折もローラーで締められます。幾度ものプレス作業が行われる中 インキの乾燥が甘いと コスレ汚れが発生します。作業中の汚れですから当然 加工会社の責任問題へと発展していくという結末ですので、細心の注意を払いますがそれでも汚れてしまう場合は、作業を中止せざるを得ません。これは印刷・製本ともにリスクが発生します。乾燥度合いは紙質 インキの種類や 湿し水のPH インキの盛量などにもよりますが 乾燥をじっと待っているという姿勢では解決になりません。乾燥が悪くなると予想できる条件は印刷工程で十分にわかるはずですので、工程管理の中で刷り本の乾燥時間調整を しっかり行ってください。

さて最近PP貼した印刷物の四隅から剥がれてきてしまうというような **PPトラブル**が増えています。特にベタ塗りの上にPP加工をした場合に多くですが、これも**乾燥が十分であれば防げる現象**です。見た目は乾いているようであっても 内部の水分の影響で紙にPPが完全密着できず 後で紙が乾いた時に縮みやカールが起こることで浮いてしまうのです。箔押しや浮き出しがある場合にはさらに問題で PPが紙から浮き上がってしまいます。いずれも**インキがしっかりと乾燥されていれば** 何の問題もおこりません。ぜひとも**乾燥時間をしっかりと確保**してください。



Tea break

弊社には「製本屋さんが教える本の作り方」という本があります。そもそも製本という工程は知っていても、製本会社の存在はあまり知られていません。そこでこの様なタイトルが生まれたのでしょう。内容通りに作ってみました。ちょっと難しく、全く初めて本をDIYしようという人には向かないようです。印刷機械は進化しましたが、製本は やはりアナログ世界！なかなか一筋縄ではいかないようです。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本